

月刊[里親だより]

第51号 2014年1月10日(金) (公財) 全国里親会

◆新年を迎えて(星野崇 会長)

新年おめでとうございます。

I F C O 2 0 1 3 は、多くの方のご協力とご支援によって実り多い大会となり、有難うございました。子どもたちの養育のためには、日本でも世界でも多くの課題があります。大会で得られた成果を、里親制度の推進に役立てて行かねばなりません。課題は多いのですが、アフター I F C O の新しいステップを踏むためには、今一度原点に立ち返り、里親の意義と役割について改めて見詰め直す必要があります。

心に傷を負った子どもたちを育てるためには、児童福祉諸団体や関係者の力が必要であるとともに、子どもの最善の利益を図るために、私達は常に研鑽を積んで行かねばなりません。また子どもからも多くのことを学んでください。忘れていた感性を教えてくれるのは子どもです。子育てにはいつも夢があります。そしてその夢が平和と幸せをもたらしてくれるのです。

◆『I F C O 2013 大阪世界大会』報告書発行

昨年9月に開催された I F C O 世界大会の報告書ができました。分科会のパワーポイント資料などは巻末にCDで添付されています。

参加者には無料で配布するほか、購入を希望される方は頒布価格 2000 円と郵送料 200 円を添えて全国里親会までお申し込みください。

◆I F C O 世界大会の収支

報告書の発送などが残っており最終的な決算にまでは至っていませんが、収支は 65013120 円でほぼ確定。報告書の作成費など全国里親会の負担部分 1606120 円がありますが、助成金収入、会費収入、抄録集等売上によって大きな赤字を出すこ

ともなく決算できそうです。

◆運営委員会を開催

12月16日(月)、運営委員会を開催しました。

・I F C O 世界大会の閉会式の際に星野会長から提案のあった「里親学会(仮称)」について検討した結果、里親だけに限らず社会的養護全体を対象とし広く呼び掛けるものにすべきであること、また当初は研究会のような形で来年度からスタートすべく、準備委員会を設置するなどが話し合われました。

・「里親信条」を見直す動き。昭和32年に制定された「里親信条」は、近年の「里親委託ガイドライン」「里親及びファミリーホーム養育指針」などと内容にずれが出ているため、見直しを行います。2月に新「里親信条」を地域の里親会に示し、意見を反映させた後、3月の全国里親会の理事会・評議員会で決定する運びです。

◆臨時福祉給付金の動き

間もなく行われる消費税率引き上げに際して、低所得者に与える負担の影響を考慮して、国は「臨時福祉給付金」の給付措置を行うとしており、里子についても対象になっています。

具体的には里子一人につき1万円を一回のみ給付。子ども名義の児童手当の振込口座に振り込むとしています。給付方法などについては未定です。

◆『明日、ママがいない』(日テレ系ドラマ)が放映されます

1月15日(水)22:00から日本テレビ系列で始まるドラマ『明日、ママがいない』は、小規模施設で暮らす子どもたちを描いていますが、施設や里親を正しくとらえていないとみられることから、全国里親会では日本テレビ視聴者センターに宛てて社会的養護を正しく理解するよう要請しました。